

耐』を持って根気強く話すこと」という回答をいただきました。具体的な説明の仕方についての回答ではなかったことに少し戸惑いましたが、その後、エネルギー問題と原子力発電の必要性について対話を進めていく上で、その回答の意味がわかったような気がしました。というのは、エネルギー問題を心の底から心配し、長年原子力に取り組んでこられたシニアの方々が熱っぽく語るお話は、我々聞き手に逼迫した世界のエネルギー事情や原子力の必要性を痛感させるものだったからです。つまり、原子力分野で長年働いてこられた経験と実績、そしてエネルギー問題への確固たる使命感が説明に非常に大きな説得力を与え、『忍耐』を持って根気強く話すことで、聞き手に納得してもらえるのだということがわかりました。それと同時に、「シニアとの対話」のような、原子力に携わる研究者・技術者と机を挟んでの対一の対話が、原子力発電に対する理解や賛同を得るのに最適であるということがわかりました。

原子力カルネッサンスという時代を迎え、これから積極

的に原子力発電所の建設、新型炉の開発が進められるにあたって、一般の人々の理解を得ることが大きな課題の一つであることが考えられます。一般の人々に対して、エネルギー危機に関する認識や原子力の必要性を理解していただくためには、たいへんな労力がかかるもの、こうした地道な対話活動は非常に効果を発するのではないかと思います。また、このような対話で刺激を受けた人々が、家族や友人など身近な人々にエネルギー問題と原子力の有用性を身近な話題として取り上げ、対話の輪がどんどん広がっていくことも十分に期待できるのではないかと思います。

参加されたシニアの皆様

天野 治, 荒井利治, 石井正則, 伊藤 陸, 小川博巳, 金氏 顕, 岸本洋一郎, 竹内哲夫, 林 勉, 原田雄平, 松永一郎, 村田扶美男, 山崎吉秀の各氏

島津洋一郎教授(北大), 吉川孝三教授(北大), 工藤和彦教授(九大) (2006年11月28日記)



新刊紹介

原子力を中心とした技術者の倫理 ケースブック

(社)日本原子力学会倫理委員会著, B5判, 61p.
(2006.7), (社)日本原子力学会倫理委員会発行,
(価格 800円, 税込)

みなさんは、日本原子力学会が倫理規程を定めていることを知っていますか?それでは、倫理規程の「憲章」や「行動の手引き」を実際に読んだことはありますか?(これは学会のホームページにもあります。http://wwwsoc.nii.ac.jp/aesj/rinri/index.html)

本書は、まず冒頭で憲章と行動の手引きを解説し、それに応じた「ケーススタディ(事例)」を集めたものです。ケーススタディでは、「忘れてしまった工具」、「排水データの改ざん」など全部で10の事例を挙げて、それぞれにどのような対処をすべきかを読者が自ら考えられるように工夫してあります。つまり、事例ごとに、「検討のポイント」として、倫理規程に記されているどの「行動の手引き」を参照するべきかが示されています。行動の手引きは、8分類43項目からなります。ケーススタディは、これらの項目をすべて網羅するように作成されています。よって、読者がケーススタディを学習することによって、倫理規程の定める重要な行動基準が一通り理解できる仕組みになっています。なかなかうまく考えられていると思います。

この本は、原子力技術者(本書では職能人と呼ぶ)の行動責任(レスポンシビリティ)と同時に、なぜその技術に携わっているのかという説明責任(アカウントビリティ)にも踏み込んで倫理を説こうとしているように思えます。不祥事などの発

生において、行動責任のみが強く問われすぎると、責任のある当事者は押し黙ったり挙げ句の果ては自殺に及んだりすることがあることは、「もんじゅ」のナトリウム漏洩事件を通じて共有されているはずで

したがって、そのような悲劇をなくし、原子力技術やそれに携わる人々が社会から信頼を得るためにも本書が役立つものと思います。

編著者の倫理委員会は、本書の見直し改訂などを意図的に進めていくと明記しているもので、最後に2, 3気づいたことを記しておきます。

本書は、現場の技術者の行動の手引きを強く意識しているので、学術的な研究者に関連する問題(例えば、実験結果やデータのねつ造・偽造、論文の剽窃・著者の扱い、公開と出版)については、カバーされていません。文中に、「エンブラ*」や「セキュリティー・ホール[†]」などのかなり特殊な用語が脚注などの解説なしに使われています。予算の制約があるのでしょうが、装丁やイラストはもう少し工夫があった方が魅力的な本になるのでは。また、販売価格が800円と決して安くはない。事情はあると思いますが、本書は学会会員には無料配布されてもよいのではないのでしょうか。

*エンジニアリング・プラスチックの略で、米国 Du Pont 社がそう呼び始めた。その後、工業用途で成形体として使われるプラスチックをエンブラと呼ぶようになった。

[†]セキュリティー・ホールとは、ソフトウェアの設計ミスなどで発生したセキュリティー上の弱点のこと。

(東京工業大学・澤田哲生)

